

本当の“痛み”をわかること

最近、寝る前にお腹がチクチクと痛みます。痛みが止まらなくて眠れないということはないのですが、その症状が一週間ぐらい続いています。私は体のことが心配になって、母にそのことを話しました。すると、

「お母さんも経験があるから、大丈夫、大丈夫。心配しなくていいよ。家族みんな同じ物を食べているんだから、あなただけ何かあるなんてことはないわ。とりあえず、明日病院に行こうか。」と言いました。

確かに母の言うとおりに、私が気にしすぎているのかもしれませんが、一人になると、『そんなんじゃない。“痛み”があることは事実なんだ。大丈夫なんかじゃないよ。』と、心のどこかで叫び、つらく悲しくなりました。そして、『このまま痛みが無くならなかったらどうしよう。もっともっと痛みがひどくなったらどうしよう。』などと、いろいろ考え込んでしまいました。

次の日、母と病院へ行きましたが、特に異常はないとのことでした。

母は、「お医者さんはもうすぐ良くなると言ってくれたから心配しなくていいよ。大丈夫、大丈夫。」と、私を安心させるために毎日、明るく励ましてくれます。

しかし、その後も“痛み”を感じたままの日々が過ぎました。そんな中、母は私に「何か気になっていることがあるんじゃないの？」と声をかけてくれました。

私はもうすぐ水泳の授業が始まるけれど、得意じゃないので不安になっていることを話しました。

母は、「そうだったの。今まで不安をため込んで、しんどかったでしょう。」とやさしく肩を抱き寄せながら言いました。そして、

「気にするなと言われてもそりゃ気になるよね。実は、お母さんも、あなたが何か悩んでいることがあるんじゃないかなと気になっていたんだけど、なかなかお母さんから言い出せなかったの。ごめんね。」と、私の心の“痛み”を受け止めてくれました。

私は、母に心配をかけたくなかったからすぐに言い出せなかったことを伝えました。母も、「大丈夫、大丈夫。」と励ましたけれど、本当の“痛み”をわかろうとしていなかったことを話してくれました。

私は、母が私の本当の“痛み”をわかってくれたことで、気持ちがすごく楽になりました。